

# プロジェクト設立希望書

作成：子ども発達支援総合センターちくたく 安本 元昭

プロジェクト名	支援のつながりプロジェクト（学齢期編）
プロジェクトの必要性	<p>令和5年度家族への支援部会にて行ったQ-SACCSで、支援者が様々な社会資源を活用しきれていないという課題を抽出した。それらの支援機関の情報をまとめたガイドブック等は既にあるが、既存の情報提示では、各資源の活用にはつながらず、別のアプローチが必要と考えられた。</p> <p>そこで各支援機関が児童や保護者に対して、どのような支援をしているか？他機関にどのようにつながるか？といった現実的な支援が見えるようなガイドブックを作成すれば、各機関の役割や機能の認識が深まり、活用のための“つなぎ”も適切に行えるようになるのでは…と考えた。</p> <p>このような事例を用いたガイドブックは、年代ごとの支援機関を集めなければ、現実的な状況をまとめることが難しいため、既存の部会ではなく新規のプロジェクトが必要と考え、令和6年度は幼児期編のプロジェクトを設立し、『支援のつながりガイド（幼児期編）』を作成した。</p> <p>令和7年度においては、「学齢期」を対象としたガイドブックを作成するため、新規プロジェクト「支援のつながりプロジェクト（学齢期編）」を立ち上げたい。</p>
プロジェクトの期間	令和7年7月～令和8年3月
プロジェクトのメンバー	<p>令和7年度は、学齢期の支援機関の方々に依頼する予定</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・教育：教）学びの支援担当課、教育相談担当課</li><li>・福祉：放課後等DS事業所、自立支援協議会子ども部会、おがる</li><li>・医療：ちくたく</li></ul>
プロジェクトの計画	<p>令和7年度は、小学生から高校生の期間に受けられる教育現場でのサポートや障害福祉サービス等を案内し、それらがどのように活用されているか、各機関がどのように連携しているか、事例をとおして伝えるようなガイドブックを作成する。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>① 7月頃 第1回：社会資源編の案、事例案を作成（実態の共有）</li><li>② 9月頃 第2回：事例上の支援機関の動き、連携について検討</li><li>③ 12月頃 第3回：社会資源編に掲載する各機関、サービスについて確認</li></ol> <p>→部会で報告。次年度以降の動きを検討する</p>
期待される成果	<p>支援者が社会資源について、より詳しく把握できることで、保護者に適切に情報提供がなされたり、支援のつながりが期待できる。特に経験の少ない支援者にとって、社会資源の情報は、自身の機関や地域について知る手掛かりとなり、自身の機関がどこまで支援を担うのか、その役割や立場を把握する一助になると考える。</p>